

< 全体シンポジウム >

軍事同盟のないアジアと日本

水島朝穂 (早稲田大学法学学術院教授)

<http://www.asaho.com/>

はじめに 「安保」を考える3つの「モノ」語りから

1. 「日米同盟」は「国際的な共有財産」(菅直人首相の所信表明演説)なのか？

- \* そもそも「同盟」とは何か
- \* それは日本国憲法に適合するか 集団安全保障と集団的自衛権は似て非なるもの
- \* 「冷戦後」の安全保障における3つの転換
  - ・ 「防衛」概念の転換 距離軸と時間軸
    - 距離軸：「国土」防衛から「国益」防衛へ
    - 時間軸：事前・予防・先制的な攻撃
  - ・ 「軍隊の警察化」と「警察の軍隊化」の傾向
  - ・ 安全保障における「官」から「民」へ 暴力の規制緩和（軍事のOutsourcing）と戦争の「民営化」（民間軍事会社(PMSCs)の跳梁)

2. 「同盟」の終わり 「軍事同盟よ、お前はもう死んでいる！」

- \* 軍事同盟（集団的自衛権システム）の存立の危機
  - ・ NATOの必死の存在証明 1999年のコソボ紛争・NATO空爆
  - ・ NATO50周年の風景 ボンで診ていた体験を語る
- \* “NATO2020”（NATO作業グループの提案〔2010年5月17日〕）
  - ・ NATO条約5条の新定義と「脅威」の拡大 日米安保再定義との共通性「不確実性」と「予測不可能性」
  - ・ NATOの出動範囲の拡大 「防衛同盟」から「介入同盟」へ
  - ・ 「包括的アプローチ」 「軍民協働」
- \* NATOの東方拡大とAMPO（アンポ）の西方拡大（J. Gal tung）
  - ・ 米軍世界戦略の変化におけるヨーロッパと日本（9.11後、米国は38カ国に新たに軍事基地を設け、130カ国以上に50万以上の展開。それらの基地機能、部隊機能をPMSCsが受注）
  - ・ 日米安保の「グローバル化」の根底にあるもの

3. 普天間「移設」問題の本質は何か

- \* 新政権の安全保障政策の「連続と断絶」をどう診るか
  - ・ 普天間移設問題，米軍再編問題，自衛隊海外派遣恒久法...
  - ・ 核密約解明，イラク空輸の情報公開などの積極面

- ・「日米同盟」の深化と進化
- ・小沢一郎的安全保障論の危なさ 忘れるなかれ！自民・民主「大連立」時のISAF参加発言（2007年）

\* 普天間「移設」問題をめぐる状況の変化

- ・辺野古オスプレイ新基地の狙い 軍事介入の拠点
- ・米軍の内部矛盾 4つも巨大軍隊を持っていると...

\* 「日米同盟」維持の危機 「極東」から「アジア・太平洋」、そして「世界のなかかの日米同盟」と拡大されてきたけれど...

4. 軍事同盟のないアジアと日本をめざして

\* 地域的集団安全保障体制の可能性

- ・欧州安保協力機構(OCSE)の発展
- ・“OSCA”の可能性はあるか ARF、6カ国協議、東アジア共同体論etc.

\* 対外（外交・「防衛」）政策に対する立憲的統制

- ・憲法の規範力 憲法違反と言われ続ける「うしろめたさ」の意義
- ・裁判所の意義と役割

砂川事件東京地裁判決(1959年)、長沼事件札幌地裁判決(1973年)、イラク派遣差止訴訟名古屋高裁(2008年)、同岡山地裁判決(2009年) etc.

cf. ドイツの場合(連邦憲法裁判所判決)

連邦軍のNATO域外出動(旧ユーゴ、ソマリア)判決(1994年) 基本法24条2項(相互的集団安全保障とNATO)、議会同意を条件。

トルコ上空AWACS 出動違憲判決(2008年) 実質的な戦闘行動に議会同意なし

\* 市民レベルにおける変化 アジアと沖縄

むすびにかえて 安保改定60周年はない